

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
1	序論	3.豊後大野市みらい戦略プランの要点	p.4~5	資料2の序論「3.豊後大野市みらい戦略プランの要点」は、一般的な内容にとどまっている。要点に記載されているSDGsを意識した取組により、本当に人口減少に歯止めがかかるのか疑問である。 例えば、まちを持続させていくためには、中長期的に地域に定住し、社会に貢献できる人材を良く育成していくことが不可欠である。 すなわち、人づくり、そして若者を含めた定住施策の重要性について明確に記載する必要がある。また、そのための絶対条件として、仕事、雇用、所得の3つの要素が重要であり、これらを明記しなければ基本戦略につながらないと考える。	○	事務局	みらい戦略プランでは、「3.豊後大野市みらい戦略プランの要点」を始めとして、序論でみらい戦略プラン策定の前提となる一般的な背景事情や視点等を整理した上で、前期基本戦略において具体的な課題や取組の方向性を明記する構成としています。 そのため、ご意見いただいた人材育成や後継者づくり、仕事づくり、DXの具体的な内容については、基本目標や基本方針ごとに詳細に記載した上で、取組を推進することとしています。
2	序論	3.豊後大野市みらい戦略プランの要点	p.4~5	可能であれば、イメージ図などを活用し、誰にでも理解しやすい形で展開してほしい。	—	事務局	いただいたご意見を踏まえて、レイアウトやデザインなど分かりやすい周知・広報に努めます。
3	序論	3.豊後大野市みらい戦略プランの要点	p.4~5	デジタル技術が急速に発展し、社会状況が大きく変化しているなかで、要点（2）で示されているDX戦略についてもより明確に記載してほしい。	○	事務局	※No.1と同じ
4	序論	3.豊後大野市みらい戦略プランの要点	p.4~5	議事の中で指摘された後継者づくりについても要点として具体的に記載する必要があると考える。	○	事務局	※No.1と同じ
5	基本戦略	基本目標4	p.18	資料3のNo10「基本目標4はAIやデジタルといった手段が目的になっているため違和感がある。」について、「最新技術でまちを変える」より「最新技術でまちを支える」とするほうが望ましいと考える。AIやデジタルによってまちが変わることに対して不安を感じる。	○	事務局	AIやデジタル技術の進展により、暮らしや地域の在り方が変化していくことに対して、不安を感じられるというお考えは十分に理解できるものと受け止めております。 一方で、本プランにおける基本目標は、本市が将来に向けて目指す姿や方向性を示すものであり、現状の延長線にとどまらず、野心的に先進性を持たせることが重要であると考えております。 そのため、「最新技術でまちを支える」という表現を用いることで、AIやデジタル技術を単に補完的に活用するだけでなく、地域課題の解決や行政サービス、産業、暮らしの質の向上につなげていくという強い意思を示したいと考えております。 なお、基本目標の具体的な取組においては、市民の皆さまの不安や負担に十分配慮しながら、誰一人取り残さないように取り組んでまいります。

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
6	基本戦略	基本方針1-1	p.20	資料2と資料6に記載されているKPIについて、創業者数と創業件数で表現が異なっているが、指標名はみらい戦略プランに合わせる形でよいと思う。 また、立地候補企業との面談数は、既に立地している企業との面談数も指標に追加したほうがよいと考える。		商工観光課	資料6に記載している「拠点施設の利活用による新規事業創出数（新規起業数+新規事業数）」という表現に修正しました。 既に立地している企業との面談も、事業環境の把握やフォローアップの観点から重要であるというご指摘は、事務局としてもそのとおりであると認識しております。一方で、本KPIは、企業誘致の取組を通じて新たな立地につなげていくという成果を測ることを目的として設定しているため、あえて「立地候補企業との面談数」を指標としております。 これは、新規立地の可能性がある企業に対して、どれだけ積極的にアプローチできているかを可視化するためです。 なお、既存立地企業との面談については、別途、企業支援や定着促進の取組の中で継続的に実施していく考えであり、KPIの趣旨に応じて指標を整理しています。
7	基本戦略	基本方針1-2	p.22	農業は豊後大野市の基幹産業である。高齢者含め年齢に関わらず従事しているが担い手不足が課題である。今後は、農業に光が当たる施策を展開してほしい。	—	農業振興課	資料2の基本方針1-2で次世代の担い手の確保・育成に向けた取組の方向性を記載しています。具体的な取組の方向性を実現するため関連計画や個別戦略を通じて、施策を展開していきます。
8	基本戦略	基本方針2-1	p.25	郷土愛を育むことは重要であるが、子どもたちの多くは都会に行きたいと思っている。今後は、子どもたちが都会に出ていかなくてもよいような何か、あるいは都会の魅力的な要素を地域に取り入れるような施策を検討してほしい。	—	事務局	p.19の基本方針1-1に記載しているとおり、豊後大野市の住みづらさとして「市内に適当な職場が少ないから」「交通の便が悪いから」、「日常の買い物不便だから」等の意見があることを踏まえて具体的な取組の方向性を検討しており、市民の住みづらさを1つずつ解消していくことを目指して取り組みます。
9	基本戦略	基本方針2-3	p.26	資料3のNo14:高校生・学生アンケートのうち定住意向に関する結果は、女性が「10年後も住みたい」と回答した割合が少ない。人口減少対策の取組として、女性が「豊後大野市に住み続けたい」「Uターンで戻ってきたい」と魅力を感じられる計画にしてほしい。」は、女性という文言を計画に明記してほしいという意図であった。 大分県は女性の活躍推進に厳しい目があると感じる。女性が市内に居住し続けるためには、キラキラと活躍できることや、子どもを安心して育てられる環境が重要である。現在、幼児教育が他市町村と比較して優れていない。これらの施策を強化してほしい。	○	事務局	高校生・学生アンケートの結果から、女性の「10年後も住みたい」と回答した割合が低いという点については、事務局としても重要な課題であると認識しております。 また、ご意見のとおり、性別によって行動や選択が制限されてしまうような社会的な雰囲気は、女性の定住意向や将来展望に大きな影響を与えるものと考えています。 また、子育て環境や教育環境の充実が、安心して暮らし続けられるまちづくりに不可欠であるという点についても、重要な視点であると認識しております。 こうした課題意識を踏まえ、本計画では、基本方針2-3に「固定的な性別役割分担意識が解消され、男性も女性も自分らしく活躍できる。」「年齢や性別、子育てなどの家庭状況に関わらず、誰もが自分らしく学び、働き、活躍することのできる社会を目指す。」という旨を明記し、基本方針の考え方として位置づけました。 今後は、この基本方針のもと、女性が市内で暮らし続けたい、またUターンしたいと感じられるよう、働く場づくりや子育て・教育環境の充実など、関連施策を総合的に推進してまいります。